

とやま 保険医新聞

2012年 富山県保険医協会
6/15 富山市桜橋通り6-13、フコビル11階
第343号 (076) 442-8000、FAX 442-3033
発行人 矢野博明
(年間購読料6,000円・一部500円)



原子力安全・保安院は、2月13日に関西電力が提出した3,4号機のストレステストについて、「妥当」とする審査書を発表した。また、3月23日に原子力安全委員会はこの保安院の審査書を「妥当」と確認した。この日の安全委員会では、保安院の審査書を「妥当」とする確認文書(案)が用意されており、班目春樹委員長が淡々と議事を進め、5分後には「これを本委員会の見解とします」と述べて会議を打ち切った。(Wikipediaより)

大飯原発の拙速な再稼働に反対する

「安全対策がまったく不十分」と矢野会長が談話

わが国の豊かな自然が放射能によって汚染され、農業をはじめ地域経済が深刻な打撃を受け、故郷を失った十六万人の被災者はいつ帰れるかわからない状態です。このような中、六月上旬、野田首相が大飯原発三、四号機の再稼働を決定することが連日のように報道されました。

【談話内容】

六月八日、野田首相は記者会見で関西電力大飯原発の再稼働を表明しました。これを受けて西川福井県知事および時岡おおい町長も近日中に再稼働に同意するとみられています。夏の一時的な電力不足を理由とした無期限の再稼働はとうてい納得できるものではありません。国民生活の安全・安心が首相や首長の責任というならば、安全性の確認ができていない原発は稼働させてはなりません。夏の一時的な電力不足を理由とした無期限の再稼働はとうてい納得できるものではありません。国民生活の安全・安心が首相や首長の責任というならば、安全性の確認ができていない原発は稼働させてはなりません。

Women's Eye

No. 1

夫婦別姓

富山協立病院・内科
山本 美和

思っていました。それが、だんだんと知恵がついてきて、本当に結婚するころには(相手が、これまた平凡な名字だったこともあり)、「女性ばかりが姓を変えるのはへんよね」と、社会のバランスを考慮し、私の名前で結婚届は一応提出して、夫に通称を名のってもらうことになったのでした。



こんにちは、女性医師のコーナーが始まりました。女性医師って特別扱いされるのはあまりうれしくないのですが、この世の中、まだまだ女性であることで制約があることも事実で、そういう現実を気づいていくことも大切なことと考えています。また、女性ならではの楽しみもいっぱいあるので、女性医師発信の楽しいコーナーになるといいですね。ということで、今回は、ジェンダーを乗り越えようとしてひそかにこだわっていることを紹介します。それは夫婦別姓です。実は、私の姓は「山本」という最も平凡な名前なので、少女のころは、「カッコいい名字の人と結婚したい」と

その後、子供も生まれ、今、上の子は小6になりましたが、大きな問題なく生活できています。子どもは友達から、「なんで」とたまに言われるそうですが、特に気にしていません。また、PTAには夫が中心に出ているので、父子別姓でやることがありますが、周りの方はうまく慣れてくれています。別姓にすることで、家族が崩壊することはもちろんなく、むしろ、より自立し、個を大切に夫婦や家族の関係を築きやすいように思います。夫婦別姓を選択できる法律も、いずれ通ると思います。自分で、夫婦で、考え、選べるのはいいですね。

高齢終末期の“看取り”と“胃ろう”を考えるフォーラム

日時 2012年6月24日(日)

開場12:00 開会13:00 閉会16:30

会場 **ボルファートとやま**
2F 真珠の間

講演 13:05~

穏やかな最期を迎える「平穏死」のすすめ

—医療・介護が果たす役割—

「平穏死」のすすめ (講談社) 著者、医師

石飛 幸三 氏

1935年広島県生まれ。慶応大医学部卒。ドイツの病院で血管外科医として約2年勤務。東京都済生会中央病院副院長などを経て、2005年12月から東京都世田谷区の特養「芦花ホーム」の常勤配置医。



シンポジウム (14:45~16:30)

座長 中川 彦人 氏 (新川地域在宅医療連携協議会会長)

高齢終末期における栄養管理をどう考えるか

- 公的病院医 荒幡 昌久 氏 (南砺市民病院)
- 民間病院医 豊田 恒良 氏 (光ヶ丘病院)
- 特養配置医 美濃 一博 氏 (みのう医科歯科クリニック)
- 特養介護士 長谷川久美子氏 (あんどの里)
- 助言者 石飛 幸三 氏

第33回 保険医作品展 and ファミリー展

ぜひお越しください (入場無料)

作品: 絵画・写真・工芸・書など
出品者: 医師・歯科医師・家族・従業員

とき **6/27 (水) ~ 7/1 (日)**
開場9:30~18:00 (初日は13時から)

ところ 富山県民会館 2F ギャラリーA

人生の最終章、口から食べられなくなってきたとき、あなたは医療と介護に何を求めますか?

ところが現状はどうだろうか。今も福島第一原発の炉心がどうなっているかわからないのに、過酷事故未対策の大飯原発の再稼働を決めた。首相の耳には故郷に帰れない十六万人の被災者の思いは届かず、電力会社や経済界の言い分そのままの決断に、世界からの日本の評価は下がる一方だ。今政権に望むことは迅速な東北の復興と国民の安全・安心の保証だ。そのためなら国民は我慢できる。野田政権はブレないというが、財界のためではなく、国民のためにブレないほしい。(Y・M)



野田政権の掲げる「消費税増税・一体改革」が大詰めに迎えている。衆議院の期末である今月二十一日、野田政権はどうなっているだろうか? 国会での答弁からは解散・総選挙もありの可能性がある。そうなるもまた政治は長いトンネルに入る。まるで東日本大震災の被災者のことを忘れているかのようだ。喫緊の課題は「一体改革」ではなく、まずは東北の復興、たつたのではないのか。これを一刻も早く成し遂げることが日本再生の第一歩である。世界はこれに注目している。この巨大災害から日本は復興できるかどうかを。